

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト 2026

神戸市東灘区
in

世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～

映画をみて
語り合い
しましょう！

#せかメン
映画



せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら▶



人はつながりで
生かされる

知っているようで知らない
震災後のメンタルヘルス

第1回 東灘区メンタルヘルス映画上映会

日時

9/26(土)

12:00受付開始

会場

神戸市立御影公会堂
白鶴ホール

参加費 500円
(受付で現金払い)

スケジュール

12:45～
映画上映(113分)
15:00～
ゲスト 米倉一磨さんとの対話

Guest

米倉一磨(よねくらかずま)さんは、福島県にある「相馬
広域こころのケアセンターなごみ」のセンター長・看護師
であり、上映作品に出演されています。

福祉事業所マーケットを同時に開催します♪

申込

申し込みは、右のQRコードから
またはメールでお願いします

✉mitsubachi-
higashinada@ymail.ne.jp



主催:精神保健地域支援の会・みつばち
東灘区メンタルヘルス映画上映会実行委員会
後援:社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 東灘区社会福祉協議会
認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸

上映作品

『生きて、
生きて、
生きる。』



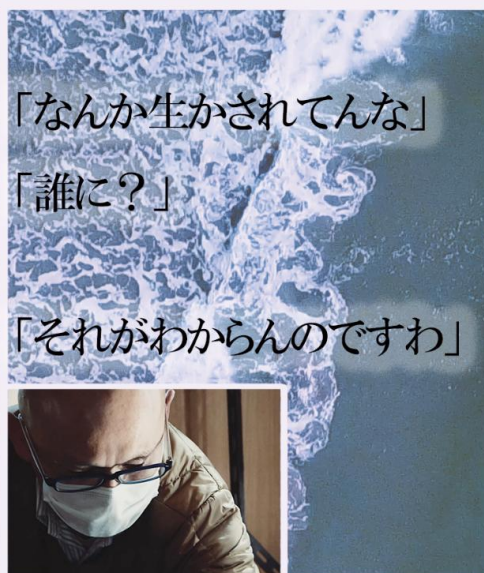
東日本大震災後の福島。

今もなお続く
見えにくい心の傷。

その現実を見つめながら、
「生きる」とは何かを問いかける
ドキュメンタリー映画。

『生きて、生きて、生きる。』

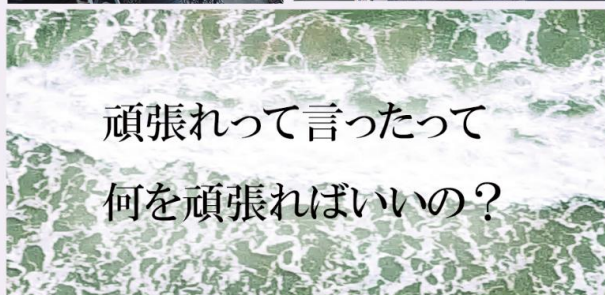
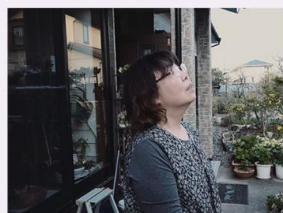
ワールドメディアフェスティバル2025
ドキュメンタリー部門 銀賞受賞作品



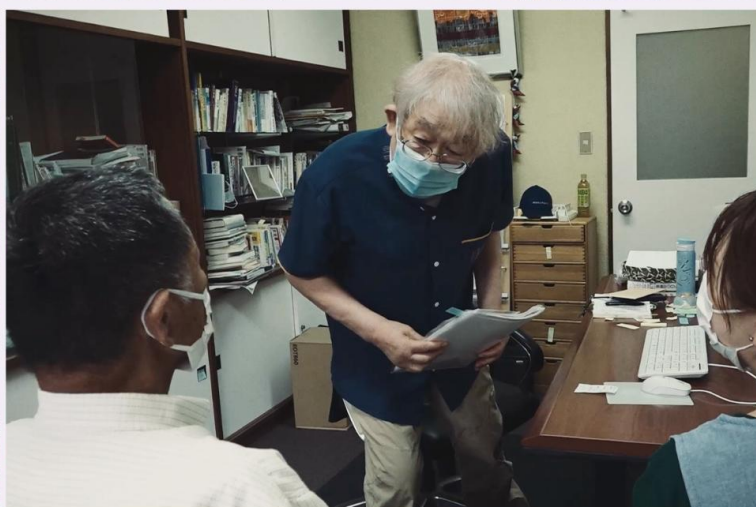
「なんか生かされてんな」

「誰に？」

「それがわからんのですわ」



頑張れって言ったって
何を頑張ればいいの？



津波で夫が行方不明のままの女性、
原発事故で避難中に息子を自死で
失い自殺未遂を繰り返す男性、避難
生活が長引く中、妻が認知症になっ
た夫婦など、患者や利用者たちのお
かれた状況には震災と原発事故の影響
が色濃くにじむ。

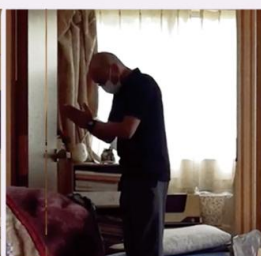
かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSD
を診ていた蟻塚医師は、福島でも
今後、同じケースが増えていくのでは
と考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れ
たと話す女性。「生きていていいんだ
という希望を持った時に人は泣ける」
と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子
を失った男性にジーンズカンを一緒に
焼くことを提案。やがてそれぞれの人
々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされなが
らも日々を生きようとする人々と、そ
れを支える医療従事者たちのドキュ
メンタリー。

震災と原発事故から13年。福島では、
時間を経てから発症する遅発性PTSD
など、このころの病が多発していた。
若者の自殺率や児童虐待も増加。メン
タルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は
連日、多くの患者たちと向き合い、そ
の声に耳を傾ける。連携するNPOこ
ころのケアセンターの米倉一磨さんも、
このころの不調を訴える利用者たちの
自宅訪問を重ねるなど日々、奔走し
ていた。

「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」



毎年、東灘区の人達は、世界メンタルヘルスデーが近くなったら、
メンタルヘルスの課題や障害のある人たちや支援する人達と触れ合い、メンタルヘルスに関わる映画を
みんなで一緒に観て、語らう時間をもつことできる。
その日は誰もが自分のところに目を向けて、自分を大切にすることを考えられる。
これから毎年、この映画上映会を続けていくことで、そんな未来を創っていったらうれしいです。

第1回東灘区メンタルヘルス映画上映会実行委員会

お問い合わせ ☒ mitsubachi-higashinada@ymail.ne.jp